

平成26年9月16日(火)

第1回 学校関係者評価委員会

1 実施日 平成26年9月4日(木) 午後4時～5時45分

2 会場 校長室

3 参加者 学校関係者評価委員 小野 博樹(教育振興会会長) 清水 義博(教育振興会副会長)
荒巻 隆文(教育振興会副会長) 秋山 君裕(教育関係有識者)
小野 英二(上八田育成会会長) 清水 泉(主任児童委員)
青木 信明(保護者代表・PTA会長 学校関係者評価委員長)
清水 琴重(保護者代表・PTA副会長)
学校側 鈴木 正一(校長) 雨宮 義仁(教頭)
田原 和仁(教務主任) 杉山 明美(生徒指導主任)

4 学校側から提案された内容 ※学校の自己評価について説明

○教職員自己評価(教務主任) ○児童アンケート(生徒指導主任) ○保護者アンケート(教頭)

5 協議された主な内容 ※○……委員からの意見・感想 ☆……学校の考え

自己評価、アンケート、教職員からの具体的な学校の様子の説明等を題材に、座談会を行った。

(1) 学力向上に関して

○学力の差に応じた取り組みはしているのか、

☆学校では、朝学習の時間には朝読書を基本としながら、学力調査結果を分析し、劣っている点を重点的に朝学で取り組んでいる。

○「総合的な学習の時間」の評価が低い。

☆「総合的な学習の時間」は、当時の新学習指導要領の目玉であったが、「ゆとり」から「学力向上」へと教育指針が大きく転換し、時数も削減されたこともあり、教職員が試行錯誤しながら取り組んでいる様が見て取れる。また、担任以外の教員は評価しにくいので「わからない」を選んでいる。母数から引いて集計するなどの工夫をしていく。

(2) 児童の学習状況に関して

○「質問する」「進んで発表」の評価が低い。児童の中には考えはあるが発表できない子もいると思うので意志を表出できる表現力を付けたり、児童が安心して発表できるような工夫(月日や順番で指名する等)をしてほしい。社員教育でも他とのコミュニケーション能力を向上させることで職能アップにつなげている。

☆学校では、授業形態にペア・班・グループの形を柔軟に取り入れ、個々の考えの確認をさせたり、ノートに書くことで考えを持たせたりするなどの手立てをしている。校内研究などを活用し、よりよい授業づくりを通じて、根気よく取り組んでいく。

(3) 楽しい学校づくりに関して

○「学校が楽しい」ことが授業の内容がわかることにつながる。楽しくないと答えた児童もいるかと思うので、先生方には、ぜひ児童の人間関係や家庭環境、いじめを見抜く力をもって、声かけをしてほしい。

(4) 基本的生活習慣に関して

○「しつけや基本的生活習慣に注意を払っている」について評価が比較的低く、保護者の課題である。特に「学校での適切な言葉づかい」「家庭学習の定着」を願う。数年前、「家庭学習の手引き」を配付したが配布しただけではなかなか定着しなかった。重点的に取り組む期間を設けたり、教員が積極的かつ継続的に児童に関わったりしてほしい。

(5) あいさつに関して

○地域でよくあいさつをする子どもが増えている。大雪の街頭指導で立っていた時や車で停車した時、育成会の行事の時にも進んであいさつしてくれる児童が多い。学校でも日常的にあいさつ運動を展開していると思うが、中だるみした時には、あいさつ強化期間を設定するなどメリハリをつけた取り組みも考えたかどうか。一方、不審者への注意が浸透しているためか、知らない人にはあいさつを躊躇する子もいる。危険を察知することであいさつがしづらいという難しさもあるが、礼儀としてのあいさつは指導すべきである。また、中学生が毎日家の前を通学するがあいさつが少ないのが残念だ。他県では地域ぐるみであいさつ運動を展開しているところがあるのでさらに百田地区の地域全体があいさつできる雰囲気になってほしい。

6 全体評価

全体傾向を把握するため、[A:そう思う][B:ほぼそう思う]評価を肯定的評価としそれら合計が80%を超えている場合は『満足できる状況』、[C:あまりそう思わない][D:そう思わない]評価を否定的評価としそれらの合計が20%を超えている場合は『改善の余地がある』と判断した。

【全体的な傾向】

上記の評価基準からすると、教職員・児童・保護者の3つの立場とも、多くの項目で[A][B]評価の合計が80%を超え、肯定的な評価がされている。[C][D]評価の合計が20%を超えるものは教職員自己評価が5項目、児童アンケートが3項目、保護者アンケートが4項目あった。

一方、学校生活全般についての調査項目（児童：「学校へ行くことが楽しい。」 保護者：「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。」）では、ともにAB評価の合計が80%を超えている。現在、本校において「不登校」と認定される児童はいない。教職員への評価も総じて高く、児童・保護者が先生方の努力をよく認めていることがわかる。以上のことから現在の本校は、概ね『満足できる状況』にあると判断できる。

7 今後の課題として意識されたこと

- (1) 総合的な学習の時間のさらなる充実に向け、研鑽をつむ。総合学習の評価など「わからない」回答に該当する教職員は母数から引いて集計する。
- (2) 「質問する」「進んで発表」できる表現力を育くむため、児童が安心して発表できるような環境づくりを校内研究のテーマでもある「聴く」指導を含めた中で根気よく取り組んでいく。
- (3) 「学校が楽しい」ことが児童にとっての幸せであるので児童の人間関係や家庭環境、いじめを見抜く力をもって、声かけをしていく。
- (4) 「基本的生活習慣の定着」を保護者の喫緊の課題として「適切な言葉づかい」「家庭学習の定着」の啓蒙をするため「家庭学習の手引き」を効果的に利用し、家庭学習に重点的に取り組む期間を設けたり、教員が積極的かつ継続的に児童に関わったりしていく。
- (5) 地域でよくあいさつをする子どもの様子を評価していただきありがたい。学校での日常的なあいさつ運動の中にも強化期間を設定するなどメリハリをつけた取組をする。また「知らない人は不審者」という意識をもっている児童への指導も機会をみて行う。中学生にも積極的にあいさつをし、百田地区の地域全体があいさつできる雰囲気になるよう根気よく取り組んでいく。

8 特記事項

特になし

記載責任者

学校関係者評価委員会委員長（PTA会長） 青木 信明